

# 「とにかく生きて」

釜石のNPO法人副理事長・伊瀬さん

室 蘭

## 震災教訓 海星高生に伝える

東日本大震災の直後から支援活動が続ける岩手県釜石市の認定NPO法人カリタス釜石の副理事長・伊瀬聖子さん(54)が1日、室蘭市高砂町の海星学院高校で講演した。全校生徒209人に、自然災害への心構えとして「まずは命を選び取る」と。どんなことがあっても生きるんだということをお忘れなさい」と力を込めた。

伊瀬さんは震災直後、カリタス釜石を設立、全国から訪れるボランティアの受け入れに当たってきた。現在は教会の隣接地に活動拠点・釜石ベースを開設、仮設住宅で開くお茶会や、災害住宅のコミュニティ支援などに取り組んでいる。



震災経験を通して生きるこの大切さについて講演する伊瀬さん

釜石の原風

景が震災で失われた経験を振り返り「自然とともに生きる私たちは自然災害から逃れられない。実際、何もできなかった。全くの無力であることを自覚しないといけない」と語った伊瀬さん。今年3月11日に制定された釜石市防災市民憲章の四つの理念「備える・逃げる・戻らない・語り継ぐ」に込められた意味を紹介した。命を守るにはその前に生きるという選択が必要という。「よく準備して素直に学ぶ心を持ち、その時が来たらただちに決断し命を選び取る。そのために必要なことを実行する勇気を持つ」と呼び掛けた。

講演は同校が毎年実施している東北ボランティア派遣事業が縁で実現。昨年のボランティアに参加した2年生の常盤百花さん(16)は「現地を訪ねて命を守るの大切なお話を聞いて、自分には何ができるのかを改めて確認したい」と話していた。

(野村英史)